



## 説教要旨 「おめでとう、恵まれた方」

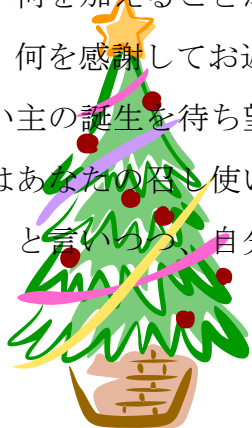
ルカによる福音書1章26～38節

人々から小馬鹿にされ、蔑まれているガリラヤ地方の、その中でも小さな村であったナザレ出身の、一人の平凡な少女が、突然予期していなかった運命を予告されたにも関わらず、それを受け入れ、自身を委ねてゆく。というのが、この“受胎告知”の物語です。ここに描かれているマリアの姿は、私たちに、自分の人生がどんなに自分の予想していなかったものであったとしても、それを引き受けるという勇気を教えてくれます。

天使からの受胎告知を受けたマリアのことを、非常に特別な役割を与えられた特別な女性であると捉えてしまうと、『自分とは違う』という風に受け取ってしまいそうになります。しかし、実際には私たちの人生も、いつも予想のつかないような展開が向こうからやってくるような体験に満ちているのではないかと思います。そういった意味では、マリアは特別な“聖母”ではありません。私たちと同じように、予想もつかない人生に右往左往している、どこにでもいるような一人の少女なのです。

思いもよらない事態に見舞われた時、ただ悲嘆にくれて泣き言を言いながら過ごすのか。それとも、その苦しい状況の中であってなお、人として生きる喜びを証しし、この苦しみは神の恵みであったと告白できるまでに生ききるのか。それは私たち次第ではないでしょうか。私たちのこの命は「与えられた」ものですから、与えてくださった神様に感謝をお返ししようとして生きるところにこそ、実は本当の自分らしさというものが表れてくるという、そういう不思議さが人生にはあるのではないのでしょうか。私たちはこの「与えられた」人生に自分が何を加えることができるのでしょうか。この命を与えてくださった神さまに、何を感謝してお返しできるのでしょうか。

救い主の誕生を待ち望むアドベントの時を歩んでいます。マリアのように、「私はあなたの器も使いですから、どうか神さまの思うように私を用いてください」と言いつつ、自分自身を献げる歩みへと送り出されてまいりましょう。



(2018・12・2 説教者：稲垣真実)